

連載「プロマネの現場から」

第 194 回 天満寺町通りと大阪の偉人

蒼海憲治（大手 SI 企業・グループ会社・事業部長）

今年 1 月に大阪に転勤になり、東京の家を引き払うまでの 3 か月の間、オフィスにほど近い南森町のマンスリーマンションに住みました。毎朝の通勤時、マンションを出て、日本一長いことで有名な天神橋筋商店街を抜けて、大阪アメニティパーク（以下、OAP）へ向かうわずか 10 分ほどの距離の中に、数多くのお寺さんがあり、その門の前には、山片蟠桃墓所や緒方洪庵墓所等多くの碑が目につきました。はたしてここはいったいどんな場所なんだろう、と興味を覚えました。

この通りは、東は OAP から西は菅原道真ゆかりの露天神（お初天神）まで、東西に 1.5km の北側にお寺が 40 弱ほど並んでおり、「天満寺町」と呼ばれていました。大阪天満宮を中心とする天満地区に、豊臣秀吉が近在の寺を集めて防衛するための城壁としたことが始まりです。江戸時代初期に完成した天満寺町は、天神橋筋から東を東寺町、西を西寺町と呼びます。

また、東寺町の一部には、「同心」という町名が現在でも残っていますが、これは江戸時代に同心の屋敷があったことから由来しています。そして、何といても目を引くのは、そのお寺さんには、大阪の歴史に名を残す数多くの偉人が眠っていらっしやることです。

大阪市北区のホームページに、「北区小さな旅ぶっく まちと歴史を楽しむ 8 コース」が載っており、その 1 コースに『3、北区ゆかりの偉人コース 大阪が誇る知と義と愛と才』（\*1）がありますが、その中に多くの大阪の偉人が紹介されていました。今回は、このコースを基に、天満寺町通りの東寺町のお寺さんの偉人を紹介してみたいと思います。

## 1. 成正寺、大塩平八郎墓所

スタート地点は、南森町の交差点から天神橋筋を 1 ブロック北にあがったところにある成正寺（じょうしょうじ）になります。

ここは、飢饉に苦しむ民衆の苦境を救おうと決起し「大塩平八郎の乱」で世直しを図った大塩平八郎・格之助父子のお墓があります。しかし、江戸時代は、幕府に反乱を起こした首謀者であるため、墓を設けることは禁止されていました。そのため、明治期になってから、大塩を慕う門人らが造営したものになります。また、共に挙兵し亡くなられた方々の慰霊碑もあります。たった一日で鎮圧された「乱」でしたが、「大塩焼き」と呼ばれる

東天満と大川南岸の谷町筋・堺筋・本町通に囲まれた一帯が焼け野原になった大激戦でした。この大塩の乱などが契機となり、「天保の改革」が断行されました。お寺の門は、日中時間帯は開かれており、他のお寺と異なり、いつでも手を合わせることができます。

## 2. 妙福寺、清正公信仰

1616年（元和元年）に創建し、江戸末期の天満の大火や大塩平八郎の乱などの災難からも免れましたが、1945年（昭和20年）の大阪大空襲により全焼し、1965年再建されました。他の再建されたお寺と同様に、火災に備えた鉄筋コンクリート作りの教会と見まがう建物になっています。

江戸時代には清正公（せいしょうこう）信仰として影響で大いに栄えました。豊臣家の法要に参列するために来阪した加藤清正が暗殺を恐れて、このお寺に宿泊したことで「清正公」の信仰が盛んとなり、また、熊本藩主時代に各種の事業を成功させたことから、大阪一のご利益があるといわれたことが由来となっています。

## 3. 蓮興寺、大塩平八郎の実家大塩家の菩提寺

天神橋筋沿いに建つ日蓮本宗寺院でお寺の前に、大塩家墓所の石碑が建っています。陽明学者の大塩平八郎を育てた祖父と祖母の墓所があります。桜の名所としても知られています。

## 4. 善導寺、山片蟠桃墓所、近藤宗悦墓所、西山芳園・完瑛墓所

お寺の門前の左側に、「近藤宗悦 居士 墓所」と「山片蟠桃 墓所」の二つの石碑が建っています。

山片蟠桃（やまがた ばんとう：1748-1821）は、懐徳堂で学問を学び、江戸時代後期に活躍した町人学者です。現代にも通じる大著『夢の代』を遺しています。大阪の豪商の一つである升屋の番頭として、仙台藩の大名貸し、のちに蔵元となり、事業を拡大させた「辣腕経営者」です。

麻田剛立の天文塾の先事館にも学び、独自の研究から「地動説」を確信し、江戸時代にあって迷信・幽霊・予知などを徹底して批判した近代合理主義の精神に満ちた人物です。蟠桃については、『夢の代』の解説書などを読み進めていますが、大変興味深く、またいつか紹介できればと思っています。

近藤宗悦（こんどう そうえつ：1821～1867）は、江戸時代末期の大阪で活躍した尺八奏者。長崎出身で、幼少から木管楽器のチャルメラが上手であったため「チャルメラ宗悦」とあだ名されたといわれます。京都の明暗（みょうあん）寺の僧となり、同寺の役僧であった尾崎真竜から明暗真法流（みょうあんじんぼうりゅう）の尺八本曲を学んだ後、「宗悦流」という尺八の流派を生み出すに至り「尺八長者」と呼ばれました。

この他に善導寺には、西山芳園（にしやま ほうえん：1804～1867）、西山完瑛（にしやま かんえい：1834～1897）の江戸時代後期の大阪を代表する画家の墓所もあります。

芳園は、四条派の松村景文(1779-1843)に絵を学び、その後、四条派を大阪に広めた人物として知られます。主に人物・花木・景色を写生し、淡い筆線で非常におとなしい画が特徴です。実際にいくつかの絵を見ましたが、背景の草木などは本物かのように正確に描かれています。弟子に、息子の西山完瑛、菅其翠、久保田桃水、逸見塘雨、五渡亭国升などがいます。

完瑛は、芳園の息子であり、父・芳園より画法を学ぶ。芳園と同じ構図、人物の描写や景物の描き方など細部にいたるまで完璧に一致した作品も残しており、父子であり師弟でも強い結びつきがありました。また、儒学を後藤松陰の門に学び、播州明石侯に仕えています。

## 5. 天徳寺、篠崎小竹・三島墓所

篠崎小竹（しのざき しょうちく：1781-1851）と養父・三島（さんとう）の墓があります。

小竹は、もとは加藤金吾という名前でしたが、非常に賢い子供だったため、儒者・篠崎三島が養子になってほしいと頼み、9歳の時に三島が開いた私塾梅花社に弟子入りし、13歳の時に養子となります。東京に遊学時、頼山陽とも交流があり、養父の三島の梅花社を継いで、育てた門人は1500名に及びました。

## 6. 宝珠院、油掛大黒天

天長2年（825）に弘法大師（空海）が、この地に草庵を建てたのが、宝珠院の始まりになります。貞観年間（859～877）の頃の2代目住職であった四世恵澄は菅原道真の学

友であったため、道真が太宰府への道中に立ち寄り、自作の木像を送ったといわれ、境内に天神社が祀られています。

また、珍しい「油掛大黒天」があり、油をかけるとつやつやに光り、嬉しそうなお顔を見ることができます。

海外でも有名な根付師・懐玉齋 正次（かいぎょくさい まさつぐ：1813-1892）、浄瑠璃の竹本摂津太夫（たけもと せつただいじょう：1836-1917）などの墓所もあります。

## 7. 九品寺、五井持軒墓所

九品寺（くほんじ）は、北区同心に位置する浄土宗のお寺さん。立派な山門の奥の本殿には、「佛品九」と書かれた扁額を見ることができます。

ここには、江戸時代中期の儒学者である五井持軒（ごいじけん、1641-1721）の墓所があります。

持軒は、当初は医業を志し向井元升、中島長安に医学を学んだが、ある女性患者の診断を誤り、救えなかったことを期に儒学に転じました。京都に遊学し伊藤仁斎、東涯、貝原益軒、松下見宜らとも広く交流し、北鍋屋町で塾を開き、四書（「大学」、「中庸」、「論語」、「孟子」）の教授 1 本に打ち込んだため、世間では「四書屋加助」と呼びました。晩年、下河辺長流に和学を学び、『校注日本紀』を著す。上総飯野藩主保科正景や大和郡山藩主本多忠平から招聘を受けたが固辞し、大阪における儒学草創期、町人学問の創始期の大儒者であったが、貧窮のうち 81 歳で世を去ったといわれます。

## 8. 龍海寺、緒方洪庵墓所、中天游墓所

龍海寺は、北区同心に位置する曹洞宗のお寺ですが、大阪城鎮護（火防）の寺として現在も火の守護として尊崇されています。緒方洪庵夫妻の墓所、洪庵が師事した中天游夫妻の墓碑、そして、洪庵の門下の大村益次郎の足塚があることでも有名です。

緒方洪庵（おがた こうあん：1810-1863）は、江戸末期の蘭学者・医者ですが、天然痘治療に大きく貢献し、日本の近代医学の祖といわれています。洪庵が開いた適塾は、門下から福沢諭吉、大島圭介、橋本左内、大村益次郎、長与専斎、佐野常民、久坂玄瑞、高松凌雲などの逸材を輩出しています。

また、大村益次郎の足塚ですが、藩兵の解体や帯刀の禁止・徴兵制度採用等の一連の軍制改革により、京阪地方旅行中に不平士族の刺客に襲われ負傷。そのとき一命は取り留

めたものの、傷の悪化が原因で後日亡くなりますが、恩師・洪庵の傍らに埋めてほしいという遺志を受け、ここに足が葬られています。

中 天游（なか てんゆう：1783-1835）は、江戸後期の医師・蘭学者です。儒学を古賀精里、医学を大槻玄沢に学び、京都で海上随鴟という当代一流の蘭学者から教えを受け、随鴟が没すると随鴟の娘さだと結婚する。女医者として評判のよかった妻のさだとともに医業を開くが、医業よりも蘭学に熱心で、「思々斎塾」という蘭学塾を開く。この門下に、緒方洪庵がいました。

天游は、目の光学についての日本最初の専門書『視学一步』、天文・数学書の『天学一步』『算学一步』などの著述を残す一方、解剖図譜を翻訳し、遺体解剖をするなど業績をあげています。

晩年、江戸で亡くなった緒方洪庵は、天游夫妻と同じ場所で眠るのが最後の望みであったといわれており、それが叶っています。

## 9. 池上雪枝感化院跡

緒方洪庵墓所があることで有名な龍海寺の向かい側の角に、池上雪枝感化院跡の石碑が建っています。

池上雪枝（いけがみ ゆきえ：1826- 1891）は、日本で最初の感化院（児童自立支援施設）とされる池上感化院の設立者です。

明治 16 年（1883）、ここに日本初の感化院を開き、行き場のない少年少女に色々な技術を教えて自立を促しました。特に英語教育を重視し、キリスト教の教師との親交を持って、国際感覚を養うことを重視するとともに、技術面においては、洋傘、石鹼、ステッキの製造など、新たな分野での職業教育を行い、自立の機会を与えました。

池上雪枝本人の墓所は、寺町通りを西へ行った所の栗東寺にあります。

## 10. 専念寺、高橋残夢墓所

専念寺は、北区同心に位置する浄土宗のお寺さん。1653 年、徳川二代将軍秀忠の御霊屋（おたまや、位牌堂）が建立されて以来、歴代将軍の位牌を安置しています。芭蕉研究の俳人、岸田素屋、語源研究の国学者・高橋残夢の墓所があります。

高橋残夢（たかはし ざんむ：1775～1851）は、江戸後期の歌人。国語学者。鴨祐為（かも すけため）に和歌を学び、のち香川景樹に師事する。古歌を研究し、言霊によって

語源を説こうとして、一音一義説を唱えた。歌集に『塵室草露』『残の夢』、語学書に『霊の宿』『国語本義』『国字定源』『言霊名義考』『和歌六体考』などがあります。

・ ・ ここまで来ると、目の前には大きな天満橋筋の道路があり、ここを超えると、OAPのタワーがあります。

『3、北区ゆかりの偉人コース』では、この後、造幣局や大塩の乱で、挙兵した大塩方が最初に大砲を打ち込んだ槐（えんじゅ）の木跡などが紹介されています。1時間ほどで、多くの大阪の偉人の方々を偲ぶことができるコースだと思います。

（\*1）「北区小さな旅ぶっく まちと歴史を楽しむ8コース」『3、北区ゆかりの偉人コース 大阪が誇る知と義と愛と才』

<https://www.city.osaka.lg.jp/kita/page/0000074538.html>